

科目名	言語発達障害学Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚士として必要な知識である言語発達障害の特性を知り、臨床の場において行う評価・診断を繰り返すことにより、基本的な知識と技術を身につける							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 言語発達段階について理解するとともに言語発達障害の特性と評価・診断について学習し、基本的な知識と技術を身につける。							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 言語発達障害の基本的な評価方法や訓練教材について理解し、VTR評価（ビデオ分析）が行える。							
回数	講義内容						準備物(教材)
1	言語発達障害児との関わり方について簡単に説明できる						
2	インリアルアプローチについて簡単に説明できる						
3	対象児のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する①						
4	教材のねらいを理解し、使い方のポイントを知る①						
5	プレイセラピーの計画が出来る①						
6	対象児のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する②						
7	グループのセラピー場面を振り返り、分析する力が深まる						
8	プレイセラピーの計画が出来る②						
9	教材のねらいを理解し、使い方のポイントを知る②						
10	STセラピー場面のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する③						
11	STセラピー場面のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する④						
12	脳性麻痺児の運動機能障害の症状が説明できる						
13	脳性麻痺児の基本的なハンドリング技術を身につける						
14	STセラピー場面のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する⑤						
15	STセラピー場面のVTRを見て、臨床観察の仕方について理解する⑥						
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 必要に応じ、適宜伝達する							
【準備学習・時間外学習】 言語発達学Ⅰの講義内容、言語発達障害学Ⅰの講義内容を復習する事							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 定期試験は実施せず、レポートの評価を70点、 小テスト・提出物の評価を30点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							

科目名	言語発達障害学Ⅲ			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	30 回	時間数	60 時間 2 単位	必修・選択	必修	担当学年 時期	2年 通年
【授業の目的・ねらい】 言語聴覚士として必要な知識である言語発達障害の特性を知り、臨床の場において行う評価・診断を繰り返し行うことにより、基本的な知識と技術を身につける							
【実務者経験】							
【授業全体の内容の概要】 S-S言語発達遅滞検査・FOSCOM・質問応答関係検査・絵画語い発達検査PVT-R・読み書き検査（STRAW-R、Reading-Test）について講義および検査演習を行う							
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 上記各検査の内容を理解し、教員の指定した主要な検査項目について実施することができる							
回数	講義内容						準備物(教材)
16	FOSCOM DVD視聴および講義により、コミュニケーション評価時のポイントを理解できる						DVD・PC
17	S-S言語発達遅滞検査① 検査の概要について理解することができる						S-S道具・DVD
18	S-S言語発達遅滞検査② 実施手順・検査教具を知り、教示方法について理解できる						S-S道具
19	S-S言語発達遅滞検査③ サマリー記入方法・判定基準について理解できる						S-S道具
20	PVT-R・質問応答関係検査の概要について理解することができる						PVT-R・質問応答関係検査
21	読み書き系検査の概要について理解することができる						STRAW-R、Reading Test
22	LCSA学齢版言語・コミュニケーション発達スケールについて理解することができる						LCSA
23	日本版KABC-IIについて理解することができる①						日本版KABC-II
24	日本版KABC-IIについて理解することができる②						日本版KABC-II
25	日本版KABC-IIについて理解することができる③						日本版KABC-II
26	遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査、KIDS乳幼児発達スケールについて理解することができる						遠城寺式乳幼児分析的発達診断
27	田中ビネー知能検査V、障がいの重い児(者)が求めるムーブメントプログラムについて理解することができる						田中ビネー知能検査V、障がいの
28	新日本版トークンテスト(TT)について理解することができる						新日本版トークンテスト(TT)
29	検査演習総復習。苦手な検査を理解できる①						該当検査道具
30	検査演習総復習。苦手な検査を理解できる①						該当検査道具
定期筆記試験							
【使用教科書・教材・参考書】 配布資料。各検査道具。							
【準備学習・時間外学習】 授業内で学んだ知識やスキルの復習ならびに、普段の授業・生活においての実践をお願いします。							
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 小テスト・提出物の評価を30点として合計100点とする。 60点以上の場合に科目を認定する。							